北谷津ゴルフガーデン

千葉県千葉市

シニアツアー

祝!! W賞金王

女子ツアー

ジュニア時代も今も腕を磨く 稲見萌寧

所属プロ

篠崎紀夫

「北谷津ゴルフガーデン」、今季シニア賞金王篠崎紀夫（52＝北谷津ゴルフガーデン）、賞金女王稲見萌寧（22＝都築電気）が育ち、今も腕を磨く練習場とメンテナンスの行き届いたショートコースだ。池田勇太（35＝フリー）をはじめ、巣立ったプロは数多い。一方、ここでゴルフに触れ、一般社会で活躍するアマチュアゴルファーも大勢いる。「強化」ではなくゴルフを通じた「育成」に力を入れてきたからだ。所属プロの篠崎と同ゴルフガーデン土屋大陸（ひろみち）社長（68）が“キタヤツ”の秘密に迫る。

稲見萌寧を祝うグッズや花

シニア賞金王の篠崎を祝福する花

池田勇太ら巣立ったプロ多数！土屋大陸社長と篠崎が“キタヤツ”の秘密に迫る

笑顔で握手するシニア賞金王の篠崎紀夫（左）と北谷津ゴルフガーデンの土屋大陸社長（撮影・横山健太）

07年ANAオープンで初V飾りローアマ池田と表彰式、今季賞金約3400万円

篠崎紀夫賞金王までの道のり

高校までサッカー部。プロを目指して卒業後、北谷津ゴルフガーデンに入ってから、ゴルフに真剣に取り組んだ。毎日8時間仕事をした後、閉店まで独学で練習した。

全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）研修会を経て92年、PGAプロテストに合格。入社から4年半だった。だが、ここからが長かった。試合出場もできず、苦労する。それでも試合出場を目指して練習に励み、レッスンの仕事もしていた。花開いたのは07年のANAオープン、ツアー初優勝を飾り、北谷津出身でローアマの池田勇太と表彰式で並んだ笑顔は記憶に残るものだった。

その後は故障などに苦しんだが、19年終盤にシニア入り。昨年のマルハンカップ太平洋クラブシニアで初優勝して賞金ランキング2位。今季は3勝を挙げ、獲得賞金は3408万1521円。ツアー8勝の細川和彦や13年の全米プロシニア優勝の井戸木鴻樹らを抑えてキャリア初の賞金王に輝いた。

放課後天国

「ずっと所属先が変わらないんですごいって、よく言われます。僕は普通だと思っていたんですけど、それだけ居心地がいいんですね」。高校卒業後、ずっと北谷津ゴルフガーデン所属の篠崎がそう言って笑う。

“キタヤツ”とはどんな場所なのだろか。1970年（昭45）に土屋社長の父である先代が練習場を始め、ショートコースを徐々に広げていった。ジュニア育成は33年前に故・千葉晃先代が提唱し、千葉晃のジュニアゴルフミーティングに始まった。「子どもたちが喜々としてゴルフを楽しむ姿を想像してくれ

1994年の千葉晃のジュニアミーティング開校当初の模様。前列中央に池田勇太、右へ1人おいて木下裕太、隣に市原弘大。3列目中央、ハンチング帽が故千葉晃氏（写真提供　北谷津ゴルフガーデン）

北谷津ゴルフガーデンに飾られた子どもたちの写真

北谷津ゴルフガーデンに飾られたプロたちの写真

ませんか」と言われて“熱心じゃない”がモットーで、教えるのではなく楽しむ集まり。子どもたちの良いところを伸ばすという方針に、笑みがあふれた。プロゴルフの合間に顔を出す。「放課後天国」。大人たちの目を気にせず、子どもたちが楽しめる」（土屋社長）、子どもにとって何より楽しい時間だったに違いない。

「何も教えなくていい、やるなら最初は現場の教育だ」と、千葉さんに言われたのを今も鮮明に覚えています。子どもたちが自分で行動を起こすのを待つ、教育に最も大切で難しい部分を買って出ていました。千葉さんは18年に亡くなりましたが、その方針は今も生き続けている。

北谷津上一期生の池田勇太がお祝い

2021年賞金王おめでとうございます。毎日ねんとうごございます。毎日ねんとうごございます。毎日ねんとうご